

## 2 計画敷地：「CLTの聖地」真庭市を活性化高齢者施設の先駆者に

岡山県真庭市  
「CLTの聖地」



高齢化問題

消滅可能性自治体

2020年から20250年までの若年女性人口が50%以上減少すると予測されている自治体



計画敷地は「CLTの聖地」である岡山県真庭市とした。真庭市では高齢化問題が顕著な市であり、「消滅可能性自治体」とされている。敷地計画は現在4棟平屋の集合住宅が佇み、周辺は住宅街に囲まれ小学校に挟まれている。地方に見られるコミュニティハウスは周辺にはなくコミュニティの希薄さが伺える地域である。本提案では真庭市とすることで4つの異なる材を調達でき、CLT利用の計画によりいきいきと生活する高齢者が施設にあふれ、さらにまた町に飛び出し、町の生活の活性化させていく「ウェルビーイングサイクル」を計画する。全国に施設が普及することでCLTのPRと活用が広まり、全国にある高齢者施設のプロトタイプとなる。

この建築で達成されるSDGs

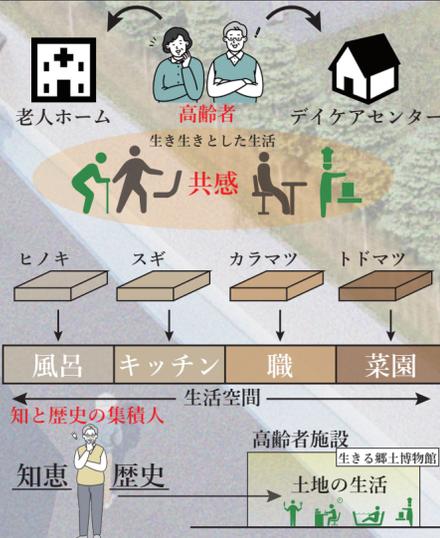


## 1 背景：他者への共感によって得るいきいきな暮らしの実現

今日、日本は後期高齢化社会を向かえ、都市部、地方に限らず高齢者施設が増加傾向にある。老人ホームやデイケアセンターを始め、外部との関係性を遮断した高齢者施設はただ高齢者が集まる場所としている。ただ集まり生活するのでなく、相手を思い自らの手で施し、施されることで「他者との共感」が生まれいきいきとした生活が始まると考える。

本提案では、CLTの材質に着目する。材質ごとに違う特徴を生活空間に落とし込むことで、各生活空間が五感を刺激し、生理活性（ウェルビーイング向上）により、他者との共感を促す生活拠点を提案する。

また高齢者とその土地の「知恵と歴史の集積人」とし、オープンに開くことで「生きる郷土博物館」として機能し、その土地の生活の知恵や文化・人に接触できる施設としても提案する。



シニア生活共感センター